

# 「環境未来都市」構想のコンセプト 中間取りまとめ(案)の概要

平成23年2月

内閣官房地域活性化統合事務局

# 1. 「環境未来都市」構想の趣旨

- 新成長戦略(平成22年6月閣議決定)に基づき、
- 特定の都市・地域において、未来に向けた技術、社会経済システム、サービス、ビジネスモデル、まちづくりで世界に類のない成功事例を創出
  - 成功事例を国内外に普及展開
    - 需要拡大、雇用創出、国際的課題解決力の強化

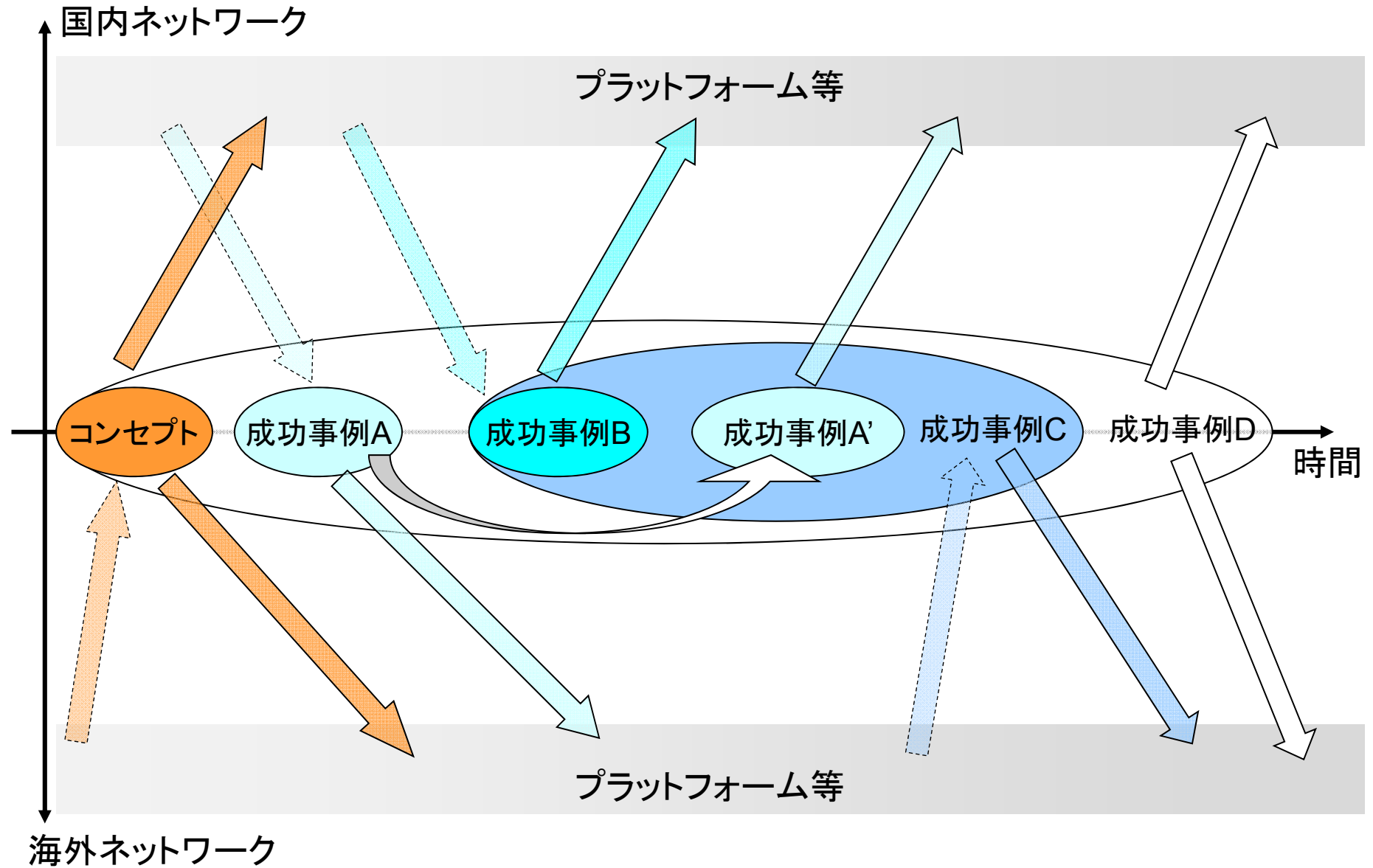


社会経済システムイノベーション実現による地域活性化  
〈環境・超高齢化対応、国際化〉



国民一人一人誰もが豊かで快適に、元気に暮らすことができる  
持続可能な経済社会の実現

# (参考) 成功事例の普及展開 (イメージ)



## 2. 都市・地域をめぐる状況

### 現状と課題

#### ① 人口減少・少子化

- ・ 2004年の約1.3億人をピークに、人口減少へ
  - ・ 2050年には、約9,500万人まで減少
- ⇒ 人口減少に対応可能な都市・地域づくり

#### ② 超高齢化

- ・ 高齢化率(65歳以上) : 約23%(2009年)  
約40%(2050年)
  - ・ **前例のない超高齢社会**
- ⇒ 高齢者も健康で、安心して、充実した生活を送ることができる都市・地域づくり

#### ③ 環境・エネルギー

- ・ 中長期目標(2020年:25%削減、2050年:80%削減)の達成に向けた低炭素社会づくり
  - ・ 資源セキュリティ問題に対応できる資源循環
- ⇒ 都市・地域が担うべき役割拡大

等

### 更に伸ばすべき我が国の比較優位

- ・ **環境・エネルギー技術**
- ・ 人口・産業が密集した都市のマネジメント(防犯、防災等)
- ・ 固有の歴史、伝統、文化、国民性等

等

### 海外動向

- ・ スウェーデン、デンマーク等では、都市改良の技術・手法を国を挙げてパッケージで輸出
- ・ 天津(中国)、マスタートール(UAE)など環境・エネルギー技術導入を核とした新たな都市づくりが急進展
- ・ アジアでは、数百万人が暮らすメガシティの建設が進展

⇒ 蒸暑気候を共有する日本の**省エネ技術等は比較優位**

- ・ 今後アジアでも、急速に高齢化が進行

⇒ 中国の高齢化率は、2050年には、30%超

⇒ **巨大市場の誕生**

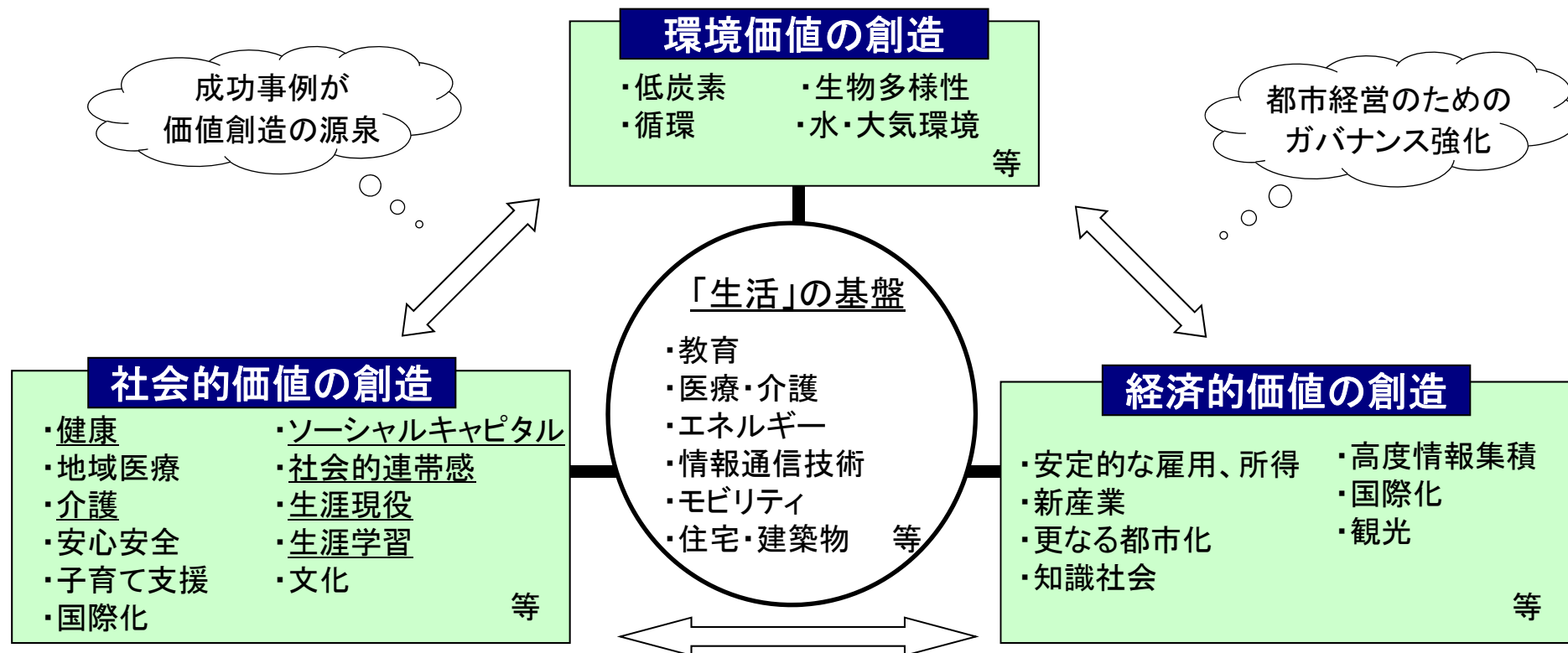
- ・ International Council for Local Environmental Initiatives(ICLEI:国際環境自治体協議会)等の都市間の**国際ネットワーク**が活発化

等

### 3. 将来ビジョン: 環境・超高齢化対応等を追求した人間中心の都市

- ① 「誰もが暮らしたいまち」、「誰もが活力あるまち」を実現
- ② 人、もの、金が集まり、自律的に発展できる持続可能な経済社会システムの構築
- ③ ソーシャルキャピタル(社会関係資本)の充実等により、社会的連帯感の回復
- ④ 人々の生活の質を向上させることが究極的な目的

人間中心の「誰もが暮らしたいまち」「誰もが活力あるまち」とは、  
生活基盤の向上のため、環境・社会・経済という3つの価値が創造されるまち



※下線の要素は超高齢化対応に関係が深いもの。

## 4.生活基盤向上を実現するイノベーション(事例)

### 民間投資を誘発する仕組み

生活基盤の向上を実現する  
要素の因数分解とインテグレーション

#### 環境

- ・再生可能エネルギー、高効率機器・設備の導入、断熱性能の向上による住宅・建築物のゼロエミッション化
- ・次世代自動車の大量導入
- ・情報通信技術を活用したエネルギーマネジメント(スマートグリッド、BEMS、HEMS等)
- ・集約型都市構造への転換と公共交通の整備

等

#### 超高齢化対応

- ・バリアフリー性能や断熱性能の高い住宅の普及
- ・情報通信技術を活用した在宅生活支援
- ・高齢者用パーソナルモビリティ、医療・介護ロボット等の研究開発・実用化
- ・海外からの来訪者を対象とした健診、治療等の新たなサービス導入

等

#### 国際化その他

- ・国際的連携の下で、ベンチャー創出や産学連携など、研究機関の研究成果を地域の活性化につなげる取組
- ・魅力ある観光地づくり、留学環境の整備等による訪日外国人需要の掘起こし
- ・規制・制度改革

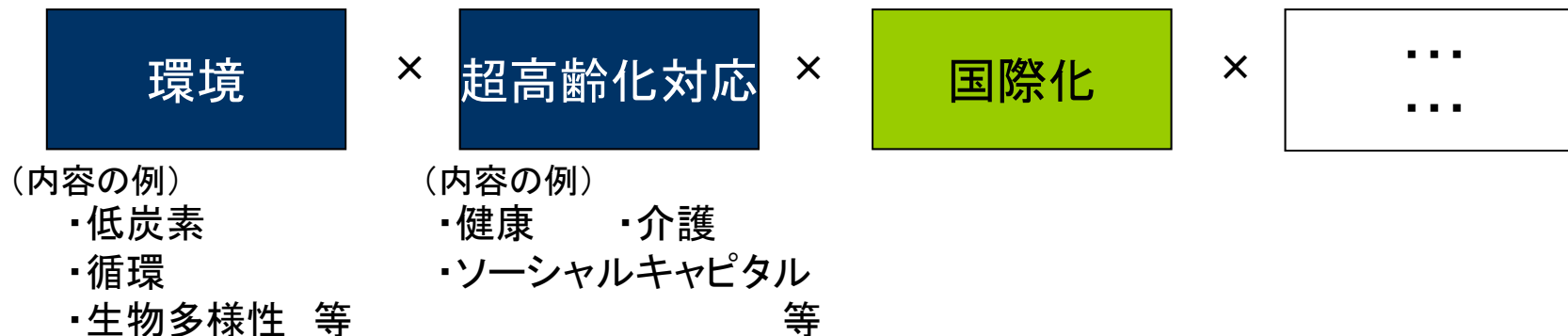
等

## 5. 個別都市における将来ビジョンの具体化の仕組み

- ① 多様性と独自性の尊重
- ② 環境価値、社会的価値、経済的価値という3つの価値創造の最大化を目指す
- ③ 構成要素の分類と独自性のデザインにより、価値の創造量に差異が発生
- ④ 国内外の都市・地域ネットワークの活用

 戦略的なビジョンが必要

### 構成要素の分類



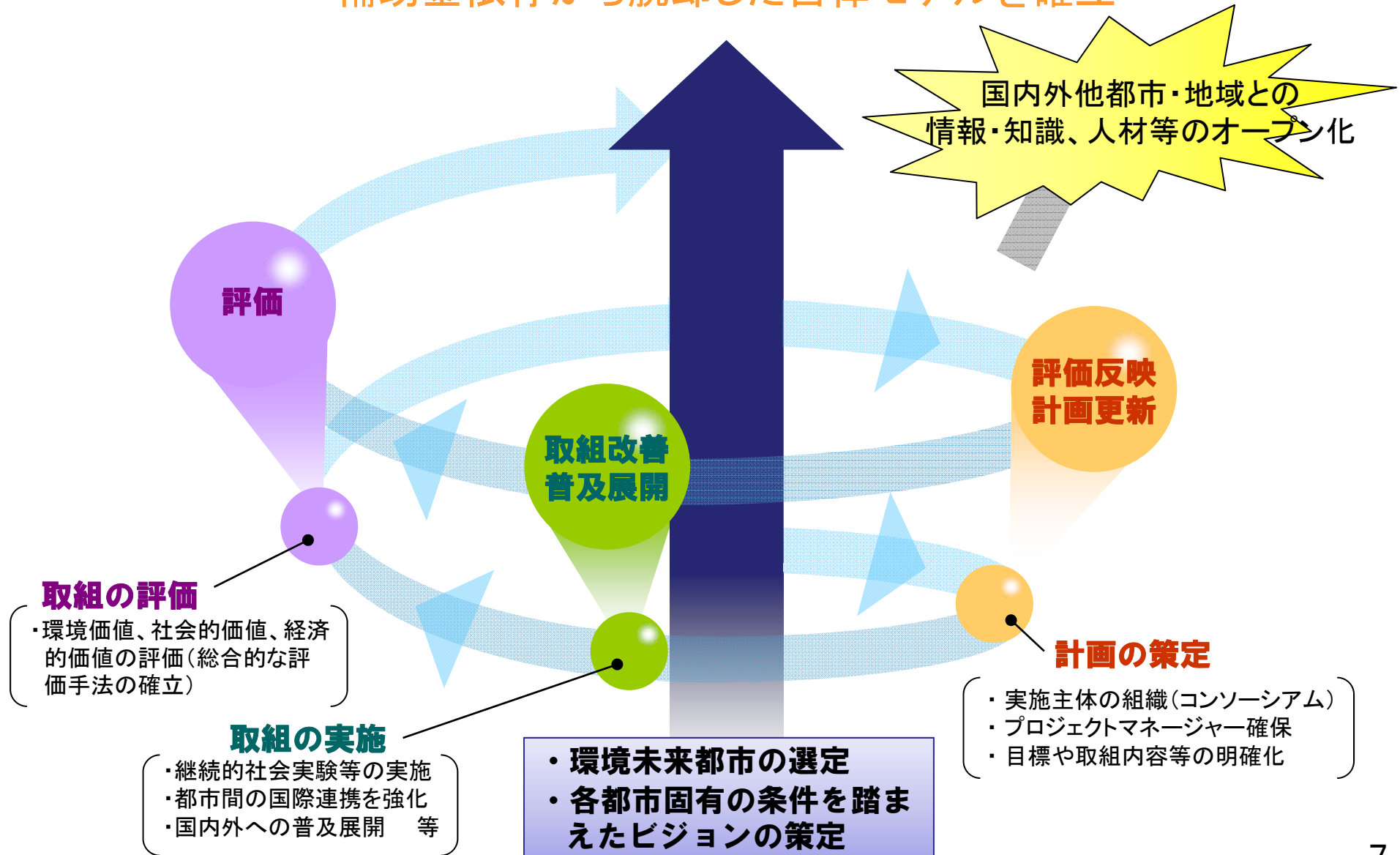
### 独自性のデザイン

- ・ 地理的特性
  - ex. 大都市、中規模都市、農山村地域、臨海地域、積雪地域、再開発地域
- ・ コアコンピタンス
  - ex. 技術、食料、森林、子ども
- ・ 国内外への普及展開の可能性
- ・ 事業性
- ・ PFI、PPPの活用

等

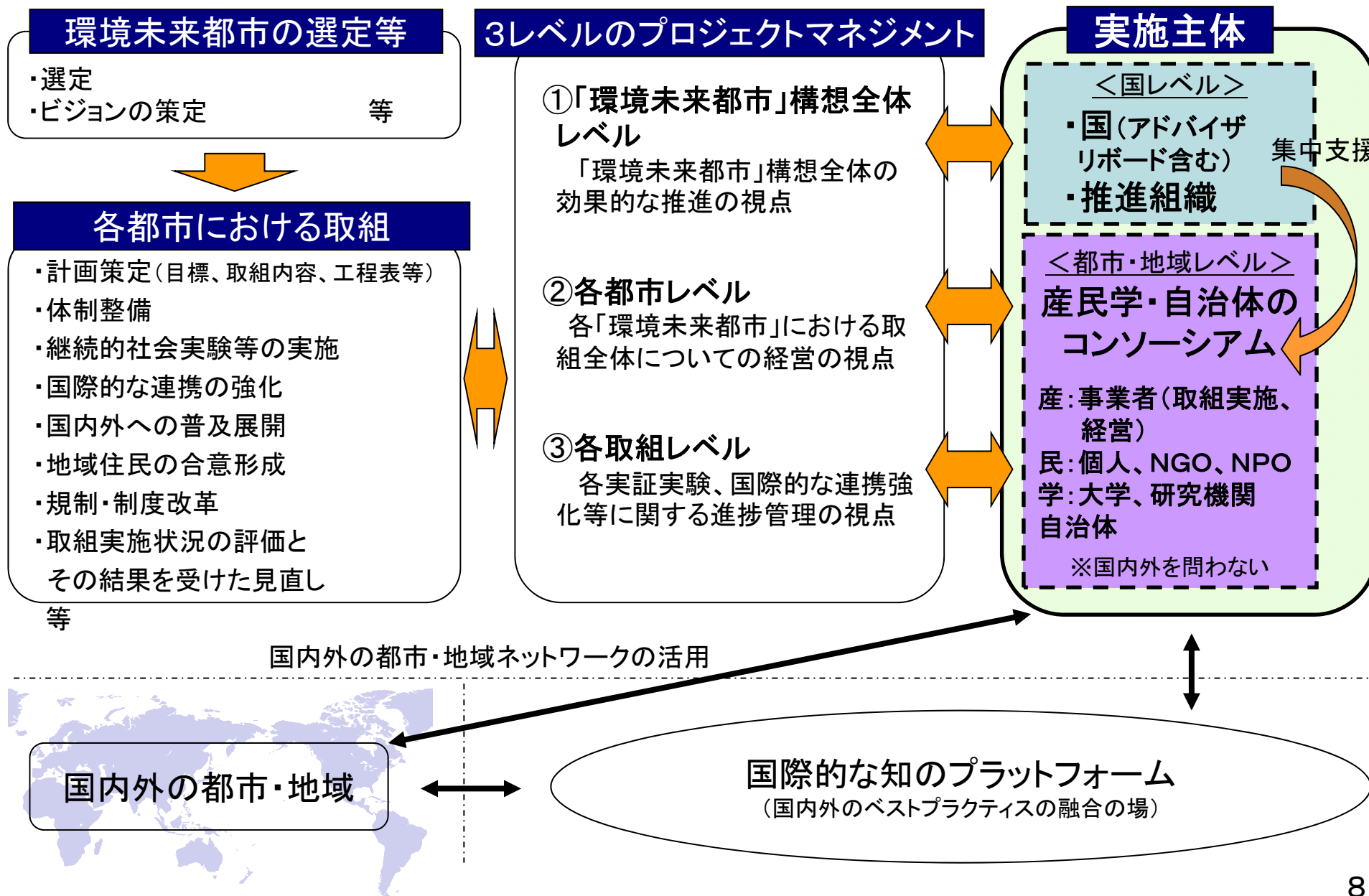
# 6. 柔軟でスピード感あるプロジェクトマネジメント

世界の英知を結集し、  
補助金依存から脱却した自律モデルを確立



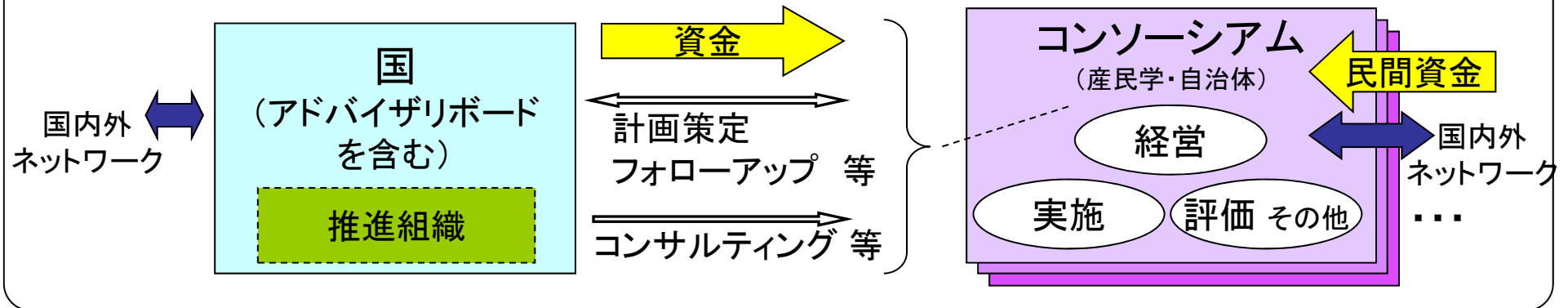


# 7. 実施主体の位置付け



## 8. 実施体制と推進方策：執行体制における強力なガバナンス

### 当面の体制



### 本格実施時の体制

